

第2学年〇組 国語科学習指導案

日 時：令和7年〇月〇日（〇）第〇校時

場 所：2年〇組 教室

授業者：〇〇 〇〇

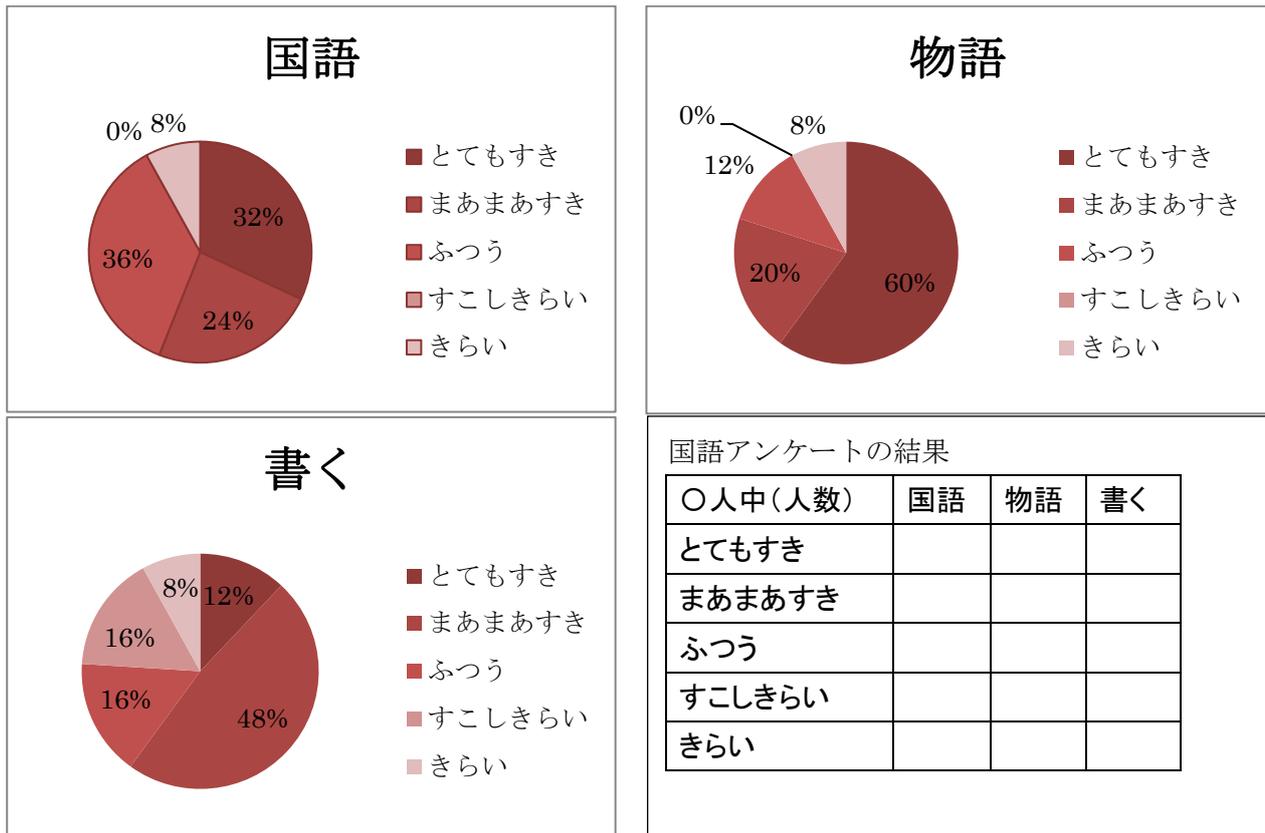
- 1 単元名・教材名 組み立てを考えて、お話を書こう
「お話のさくしゃになろう」（光村図書2年下）

2 児童の実態と本単元の意図

本学級の児童は、学習意欲は高い児童が多いが、理解力や学習の内容の定着には大きな差がある。また、図鑑等を眺めることが好きだが、文字を読んだり書いたりすることを苦手とする児童が多く、物語を読む読書を好まない傾向がある。

読むことに関して、構成が明確で、筆者の考えが分かりやすい説明文であれば自信を持っている児童が多めであるが、物語を読むことを得意とする児童は少ない。「スイミー」の学習時に並行読書でレオ・レオニの本を読むことに取り組んだが、意欲的に読書に取り組めた児童は一部だった。また、感想文を書く取り組みもしたが、あらすじや主題を正しく読み取ることができ、感想を書けた児童は、非常に少なかった。原因としては、文字を追うのに精いっぱい、言葉から想像を広げ、どんな内容を詳しく理解することや、語彙力が低いために自分の考えを言葉や文に表現することに課題があるようだ。

アンケート結果は次のようになった。



児童は、物語が好きな理由は、「面白いから読むのが好き。」という一方、嫌いな理由は「文字や漢字を読む（内容を理解する）のが苦手好きでない。」と答えている。また、書くことでは、「『あのねちょう』は、慣れてきて好き。」「ほめてもらったから好き。」という一方、嫌いな理由では、「文字や漢字を書くのが苦手。」「感想や思いをかくのは、大変。」という理由を答えていた。

「書くこと」の学習は、1年生の時に「どんなおはなしができるかな」で、動物を選んで、短い文章と会話でお話を作り、読んだ友達が伝えたことからお話を作って書く経験をしてきている。初めてのお話作りでは、絵に出てくる動物たちの様子から想像を広げたり、主語と述語の関係に気を付けた

りして、会話や行動を短い言葉で分かりやすくお話を書き、友達を楽しませ、思ったことを伝え合うことをねらいとして取り組めた。

本単元の「お話の作者になろう」も、挿絵から想像を広げるため「どんなおはなしができるかな」の学習経験を基に進めることのできる教材で、国語の物語文を書く基礎的な学習に向いている教材である。

本単元は、簡単な物語の組み立て「初め」「中」「終わり」を考えて、表現する初めての学習になる。「初め」「中」「終わり」のまとまりが示された挿絵を活用しながら内容の特徴に気付かせ、組み立てを意識し「中」の出来事の自分の思いや考えた面白さが読み手に伝わるように分かりやすく書くことを指導できる単元である。「初め」と「終わり」の絵が示されることで、「中」の出来事に焦点を当て、想像を広げ楽しんで意欲的に書けるようになっており、初めて構成を意識して物語を書くことにふさわしい教材になっている。また、主人公が仲間と「どんぐり（木の実）」について話しているような「初め」の挿絵と二匹が喜びながらどんぐりをバッグに詰め帰って来た姿の「終わり」の挿絵は、1年生の秋探しの活動等を通してみんなで協力してたくさんどんぐりを拾って、おもちゃや飾りを作った経験を持つ、〇〇小の2年生に重ねやすい教材である。

物語を書くためには、これまでの読書経験も思い出して、それぞれの物語のおもしろさをもとにそれぞれの児童が主体的に自分だけの物語を書けるようにすることが大切である。そのために、既習の物語文や図書館の本等に思いをはせられるように、挿絵や本を展示するなど環境も整える必要がある。

そこで、本単元では、今までの物語を参考に、自分の思いや考えを友達に話して、交流していく。交流を通して、「主語と述語の関係」や「事柄の順序」に着目し、物語の構成を確認したり、登場人物の気持ちや物語の様子を絵から想像したりしながら、本文や会話を考え、読み手に分かりやすいお話を書いていく。

また、自分が書いた文を音読し、聞き手に読み聞かせることがとても有効である。そこで、書くことを深める工夫として、今までの物語教材と同様にワークシートや絵本を活用し、本文を書いたり、挿絵の登場人物の様子からどんな会話をしているか想像したりして、友達に話すように取り組むようにする。

また、児童が主体的に、挿絵からも場面の様子や登場人物の行動や気持ちを想像していけるようにして、計画等も自分で選択できるようにしていきたい。

そして、作品完成後、2年生に向けて書いた児童の作品は、2クラスで交換する機会をもったり、教室に展示したりする。1年生など、他学年を相手に選んだ作品は、教室や図書室に置き、読んでもらえるようにする。さらに作成した絵本等をタブレットに共有化し、2年生ならだれでも自由に閲覧し、読書できるようにする。冬休みなどにもタブレットを持ち帰り、家庭などでもいろいろな友達との作品を楽しめるようにする。

3 研究主題との関わり

(1) 令和7年度西部地区学力向上のための授業研究会研究課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

(2) 研究の視点

「主体的・対話的で深い学び」の実現する授業づくり
～国語科の「見方・考え方」を働かせた学習活動の充実～

(3) 研究課題解決のための仮説と手だて

仮説 I

相手意識を持ち、一人ひとりが目的やゴールを明確にし、学習の見通しを持ったり振り返ったりすれば、主体的に学ぶ児童の育成ができるであろう。

手だて①自分が読んでもらいたい人を想定し、その人に自分の考えが伝わるように、場面の様子や主人公の気持ちを3つの構成で表現した物語にして、相手に読んでもらうことを自分

の最終ゴールとして意識できるようにする。

手だて②単元の導入で既習の物語（スイミー等）を基にしたモデリングの作品（絵本・紙芝居など）をいくつか提示することで、どんな作品で何を伝えようかと考える機会を持ち、興味関心を高める。また、作品の形式（絵本・紙芝居・童話等）やモデルとする物語（スイミー等）などを自己で選択して取り組み、同形式や同作品モデルの児童同士で、協働的に学べる環境を整える。

手だて③毎回の授業で自分のめあてを明確にして言語活動に取り組み、振り返りで、作者としての自分にできたことや今後頑張りたいことをお手紙（応援メッセージ）に書き、「できた。」や「次にかこうしたい。」という達成感や意欲を持ち、蓄積することで自分の学びを実感できるようにする。

仮説Ⅱ

自分の思いや考えをもって表現する場面等を工夫すれば、自己の考えを広げ深める、対話的な学びができるであろう。

手だて①学習形態を個人、ペア、グループ等自由に選択できるようにし、児童が、モデルとした物語教材の学習を児童同士で振り返る機会を持ち、自分の作品に活かしたい作品の良さや工夫の視点等を共有する場面を設定する。

手だて②自分の考えが明確に読み手に伝わるかを確認するために、自分のメモを活用し、学級の様々な児童に繰り返し自分の考えを表現し、改善していく場面を設定する。

手だて③完成した作品を読み聞かせ、「初め」「中」「終わり」の構成と事柄の順序を確認しながら、自分の考えを表現し、お互いに聞き合うことで、他者と比較できる場面を設定する。

仮説Ⅲ

自分の考えを伝える言葉に着目して、言語活動を工夫すれば、言葉による見方・考え方を働かせ、深い学びができるであろう。

手だて①ヒントカードなどの支援や実物投影機とテレビやデジタル教科書を使って、既習作品の良さや工夫などを示し、作品を書くに当たって、伝える内容や視点を明確にし、可視化する。

手だて②自分の考えを明確にして、読み手が読んだ後にどんな気持ちになってほしいかを意識して、自分の考えを伝える言葉を選択し、他の児童と対話しながら、精選していけるようにする。

手だて③自分の考えを表現する場面で、自分の考えを表す言葉を繰り返し伝えたり、他の児童の考えを表す言葉を繰り返し聞いたりすることで、視点を基に認め合い、助言し合う活動を通して、「言葉への自覚」を高められるようにする。

4 単元目標

- (1) 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。 <知識及び技能> (1) カ
- (2) 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。 <思考力・判断力、表現力等> B (1) イ
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 <学びに向かう力、人間性等>

5 本単元における言語活動

簡単な物語を作るなど、感じたことや想像したことを書く。(関連：言語活動例ウ)

6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 文の中における主語と述語との関係に気付いている。 (1)カ)	① 「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)	① 進んで、自分の思いや考えが明確になるように事柄の順序を考え、今までの学習を生かして、簡単な構成で物語を書こうとしている。

7 指導と評価の計画 (全10時間扱い)

	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
第一次	1 2 ○単元の見直しを持ち、ゴールを確認する。 ○どんな相手にどんなことを伝えたいか、決める。 ○物語の教材の学習を振り返り、学んだことを基に物語の簡単な構造や工夫などの書くための視点を見つける。 ○自分の作品の参考モデルや形式などを選ぶ。 ○作品のイメージを基に、学習の計画を立てる。 【大きなめあて】 <u>「お話のさくしゃになろう～すてきなお話を書いて、相手に思いを伝えよう～」</u>	○物語の構造や書き方 ○場面分けの仕方 「はじめ」「中」「終わり」 ○学習課題の立て方	○導入でモデリングの作品を提示することで興味関心を高める。 ○物語教材を振り返ることを通して学習したことを想起し、作品作りに繋げていくようにする。 ○学習の流れを自分で考え、友達のやり方も共有しながら、選択して、自分の学習計画を立てる。 ○知りたいときに他の児童と交流しやすいように同じ絵か同じテーマの児童で交流できるような場づくりを児童たちで考える。 【知識・技能①】 ワークシート ①文の中における主語と述語との関係を確認する。 【主体的に学習に取り組む態度①】 態度 ①進んで、自分の思いや考えが明確になるように事柄の順序を考え、今までの学習を生かして、簡単な構成で物語を書こうとしている。
	3 ○「はじめ」「中」「終わり」の組み立てで大事なことを確認する。 ○「はじめ」の絵と「終わり」の絵から、「中」の想像を広げ、簡単なあらすじを考える。 ○「はじめ」の絵から、主人公の人物設定を考える。	○2枚目の絵を基に、想像しながら書くこと ○人物や行動・様子を表す言葉	○既習の物語文の簡単なあらすじを振り返り、「中」での出来事と「おわり」の収拾の考えによる面白さ、発想の良さがポイントになることに気付かせる。 ○第1次で考えた「お話をかんがえるときは」「ことばのたからばこ」などをヒントとして用いながら、絵を基に想像されることを出し合い、考えを深められるようにする。 【知識・技能①】 ワークシート ①文の中における主語と述語との関係等を確認する。
第二次	4 ～ 6 ○簡単に考えたあらすじ「はじめ」を基に紹介文やお話のきっかけをメモとして短い文章に書く。 ○簡単に考えたあらすじ「中」を基に起こった出来事や登場人物の行動と会話をメモとして短い文章に書く。 ○簡単に考えたあらすじ「終わり」を基に登場人物の行動と出来事の収拾をメモとして短い文章に書く。	○絵を基に想像しながら書くこと ○主語と述語の関係 ○性格や行動・様子を表す言葉 ○繰り返しの言葉 ○会話や行動・様子を表す言葉	○「誰が」「何をした」かがはっきりするように、主述の関係で、メモを取って、読み直し、随時、必要な時に自由に友達に確認したりして、考えを深められるようにする。 ○自分たちで考えた「組み立てをかんがえる(中)」「ことばのたからばこ」などを用いながら、選択できる絵等を参考に想像されることをメモに書き出すことを確認する。(計画の進度に合わせて、同じ時間に同じような構成部分をするグループで確認する時間を教師が把握して、意図的に行わせ、補助する。) ○自分の伝えたい事が効果的になる工夫を考え、メモする。「中」には、最低1つは、工夫した言葉を書くようにするが、たくさんあればいいのではなく、多すぎない様に、意図をもって言葉を選択させる。 ○計画の進度に合わせて、同じ時間に同じような構成部分をするグループで確認する時間を教師が把握して、意図的に行わせ、補助する。 ○どの時間も読み手を物語に惹きつける工夫として、分かりやすく、より詳しく伝えるために、既習の工夫を参考にできるように補助する。 【知識・技能①】 ワークシート ①文の中における主語と述語との関係を確認する。 【主体的に学習に取り組む態度①】 態度 ①進んで、自分の思いや考えが明確になるように事柄の順序を考え、今までの学習を生かして、簡単な構成で物語を書こうとしている。

第三次	7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○「はじめ」「中」「終わり」のまとまりの簡単なあらすじと自分の思いや考えが伝えられる工夫した言葉を友達に話し、交流を繰り返す。 ○交流を通して、構成や考えを伝える工夫した言葉に、改善が必要ならば、メモに書き加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事柄の順序 ○「はじめ」「中」「終わり」 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えが明確になるように簡単なあらすじを主述や「はじめ」「中」「おわり」のまとまりが分かるよう交流し、お互いに聞きあって、良さに気付かせる。 ○4～6時間までは、個別でのみ学習をしていた子もここでは、1回以上交流を意識的にするようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現①】清書の様子の観察とワークシートの記述</p> <p>自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成で書いたり、推敲したりしているかを確認する。</p> </div>
	8 9	<ul style="list-style-type: none"> ○メモを基に、組み立てを意識してわかりやすい文章で、お話を書く。 ○書いた話を読み返して、誤字や原稿用紙の使い方について、見直し、修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○構成の確認 ○清書の仕方 ○推敲のポイントの確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○交流で改善したメモを基に、内容を主述や「はじめ」「中」「おわり」のまとまりが分かるように書く。 ○間違いなどを確認するチェック項目をワークシートに示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現①】清書の様子の観察とワークシートの記述</p> <p>自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成で書いたり、推敲しているかを確認したりする。</p> </div>
	10	<ul style="list-style-type: none"> ○グループになって、読み聞かせをして、感想を交流する。 ○単元の学びを振り返り、今後への活かし方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせの仕方 ○交流の仕方 ○振り返りの仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の思いや考えが伝わる工夫を読む前に伝えて意識して、読み聞かせしたり、友達の良い所を見つけながら聞いたりできる様にする。 ○自己評価や相互評価で次の学習への意欲付けを図る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】</p> <p>読み聞かせの交流の様子の観察・ワークシート</p> <p>①進んで、自分の思いや考えが明確になるように事柄の順序を考え、今までの学習を生かして、簡単な構成で物語を書いたものを伝えたり、友達の作品を読んで良さを見つけたりしている。</p> </div>

8 本時の学習指導（7/10時）

(1) 目標

- 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。

〈思考力・判断力、表現力等B(1)イ

(2) 評価規準

- 「書くこと」において自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。	○本時の学習の流れと進め方	○前時までを振り返って、学習の流れを思い出させ意欲を持たせる。	3
めあて 読み手につたえたいことがわかるように考えた。(①) お話のじゅんじょやつながりについてこうりゅうし、(②)下書きメモをかんせいさせよう。.....(仮・太字は入るように計画時に支援する).....		○めあてを掲示し、声に出して読み、学習課題を明確に意識させる。またまためあてを①②と明確に分けることによりゴールをはっきりと意識できるようにする。	
2 交流の仕方を確認する。	交流での認め合い観点 ○作者が一番伝えたい考えや思いが伝わった工夫した言葉になっている。	○児童の考えた観点やP76、77の「組み立てを考えるとときには」と「友だちの考えたお話を聞いたときには」を確認し、意識できるようにする。	5
3 交流の相手を代え、何度も繰り返す。 (1) あらすじを説明し、自分が伝えたい思いや	○「はじめ」「中」「おわり」で分かりやすい順序の内容。 ○主語・述語の関係が正しく分かりやすい。	○交流を通して、自分の伝えたい事が相手に効果的に伝わるだけでなく、繰り返すことで、自分の選んだ言葉の良さに気づき自信をもった	
			20

<p>考えのために工夫した事柄の順序を伝え合い、感想を伝えあう。</p> <p>(2) 必要ならば、席に戻って、感想を基にメモを改善・確認してよい。</p>	<p>○事柄の順序</p> <p>○「初め」「中」「終わり」</p>	<p>り、よりよくしたいと思ったり、友達の言葉のよさに気づいたりして自分のメモに生かせるようにする。</p> <p>○いいところを認めてもらうことで次時に自信を持って、清書できる安心感を与えられるようにする。</p>	
<p>4 本時のまとめをする。 数名の発表を取り上げ、学級全体で交流する。</p>		<p>評価場面 [思考・判断・表現]</p> <p>《評価方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流の様子の観察・メモ <ul style="list-style-type: none"> ・あらすじを主語述語の関係や「はじめ」「中」「終わり」の順序を意識した簡単な構成で説明し、自分の思いや考えを伝えるために事柄の順序を工夫している児童をBとする。 <p><「努力を要する」状況(C)への手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモを相手に見せて「はじめ」「中」「終わり」で主語述語で書いた文をあらすじとして読み、自分の思いや考えが伝わる言葉と考えた言葉とわけを話すように、話型をヒントカードで渡し、助言する。 	<p>6</p> <p>8</p>
<p>5 本時の振り返りをし、共有する。 (作者に応援メッセージ)</p>		<p>○自己評価をワークシートに書かせる。 お手紙形式で、作者として、よいところを自分で褒め、頑張りたい事を応援メッセージにすることで、学習を振り返ることができるようにする。</p>	<p>3</p>
<p>(例) 様子を表す言葉「～」の工夫が伝わることがわかってよかったね。他の部分でも工夫していこう。</p>		<p>○次時は、完成したメモをもとに清書することを予告し、次時への見通しをもたせる。</p>	
<p>6 次時の予告をする。</p>	<p>○次時への見通し</p>		

(4) 評価に基づく改善ポイント

掲示物を用いて、本時までの学習の流れを掲示し、これまでの流れや既習事項を振り返ったり、次時以降の計画を確認したりできるような学習環境の工夫を継続して行う。また、学校図書館を活用した読書活動や本単元で身に着けた力を活かした言語活動が意図的・計画的にできるように工夫する。

(5) 板書計画

<p>ほめほめポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ」「中」「おわり」で、分かりやすいじゅんじよ内ようになっていて、……だね。 ・さくしやが一ばん伝えたい考えや思いのことが……ことばでくふうされていて、くね。 ・主語「……が」述語「……する。」の……が分かりやすいね。 ・内容がつながるようになっていてね。 	<p>お話のさくしやになろう</p> <p>めあて</p> <p>・お話のくふうをくふうしよう。</p>
---	--

黒板左面に今日の流れを掲示。黒板の右側に前時の学習を教室右面の掲示板に全体の見通しを掲示。

9 備考 在籍児童数○名